

第10回 供用期間中検査検討会 議事録

1. 開催日時 : 平成17年11月15日(火) 13:30~15:50

2. 開催場所 (社)日本電気協会 4階D会議室

3. 参加者 (順不同, 敬称略)

□ 出席者: 石沢主査(東京電力), 藤澤(原子力安全・保安院), 小田倉(日立), 佐々木(日立), 佐藤(発電技研), 東海林(IHI), 師尾(日本原電), 笹田(北海道電力), 高柳(東京電力), 成瀬(東芝), 原田(原子力エンジニアリング), 枘(電源開発), 松田(中部電力), 三原田(JNES), 綿谷(WH), 米山(発電技研)

(計16名)

□ 代理出席者: 斎藤(MHI・柴山代理), 羽田(GEII・二瓶代理), 白尾(九州電力・馬田代理)

(計3名)

□ 欠席者: 野村(関西電力), 加藤(JSNDI), 清水(東北電力), 小林(中国電力), 西田(北陸電力), 羽田(丸紅), 新田(富士電機), 溝淵(四国電力), 笹原(電中研)

(計9名)

□ 常時参加者: 岡田(パプコック日立), 島田(海上技術安全研究所)

(計2名)

□ オブザーバ: 小林(東京電力), 杉江(日本原子力技術協会)

(計2名)

□ 事務局: 福原, 長谷川(日本電気協会)

(計2名)

4. 配付資料

資料 No.10-1 供用期間中検査検討会 委員名簿

資料 No.10-2 第9回供用期間中検査検討会 議事録(案)

資料 No.10-3-1 構造分科会 規格改廃要否及び平成16年度活動実績、平成17年度活動計画(案)

資料 No.10-3-2 供用期間中検査検討会における現状及び課題について

資料 No.10-4-1 JEAG4207とNDIS0603との関連に対する質問回答(案)

資料 No.10-4-2 NDIS0603及びJEAG4207の「第1章 総則」【抜粋】

資料 No.10-4-3 JEAG4207のPD制度に対応した今後の改定方針(案)

資料 No.10-4-4 原子力発電技術 JNES-SS レポート(SGF)【抜粋】

資料 No.10-5-1 SG以外の過流探傷試験の規格化方針(案)

資料 No.10-5-2 SG以外の過流探傷試験策定の必要性調査アンケートの結果について

参考資料 No.10-1 第12回構造分科会議事録(案)

参考資料 No.10-2 日本電気協会 原子力規格委員会 規約

参考資料 No.10-3 日本電気協会 原子力規格委員会 運営規約 細則 改定案

参考資料 No.10-4 規格策定方針

5. 議事

(1) 委員変更承認と委員出席者数の確認

事務局より、供用期間中検査会委員変更について、10月27日~11月4日の間で構造分科会

委員による書面投票が行われ、可決承認されたことの報告があった。

また、本検討会委員総数 28 名に対して代理を含めた本日の委員出席者数は 19 名で、「委員総数の 3 分の 2 以上の出席」という決議のための条件を満たしていることの報告があった。

(2) 主査の選任及び副主査の指名

設楽主査の退任に伴い、改めて検討会主査の選任手続きを行った結果、候補として石沢委員が推薦され、出席委員全員の賛成で選任された。また、石沢主査の指名により副主査に野村委員が指名された。

(3) 常時参加者の確認

これまで委員として参加していた岡田氏（バブコック日立）と島田氏（海上技術安全研究所）の常時参加者登録希望について、了承された。

(4) 前回議事録（案）の確認

資料 No.10-2 前回議事録（案）について、特にコメントなく了承された。また、参考資料 10-1 の第 12 回構造分科会議事録（案）が紹介された。

(5) 平成 17 年度活動計画（案）の確認

事務局より、資料 No.10-3-1 及び No.10-3-2 に基づき、昨年度末に承認された 17 年度における供用期間中検査検討会活動計画が紹介された。

(6) PD 制度に対応した今後の規格改定方針について

1) JEAG4207-2004 と NDIS0603 との関連に対する質問回答（案）について

資料 No.10-4-1 及び No.10-4-2 に基づき、JEAG4207-2004 への質問に対する回答案について、東海林委員より説明があり、決議の結果、提案どおり了承された。次回構造分科会に提案する予定。

[質問]

日本非破壊検査協会規格 NDIS0603:2005 「超音波探傷試験システムの性能実証における技術者の資格及び認証」の付属書によって認証された超音波探傷試験技術者、探傷装置および手順書を用いる場合には、JEAC4207-2004 の付録 A-1100 項による「欠陥評価の保守性を考慮して十分な制度を有すると認められた方法」として良いのか？

[回答]

NDIS0603:2005 の付属書は、超音波探傷試験技術者、探傷装置および手順書を一括とした超音波探傷試験システムの認証であり、その認証された範囲においては、JEAC4207-2004 の付録 A-1100 項による「欠陥評価の保守性を考慮して十分な制度を有すると認められた方法」と考えることができる。

この場合には、JEAC4207-2004 の付録によらずに欠陥深さ寸法測定を行うことができる。

2) JEAG4207 の PD 制度に対応した今後の改定方針（案）について

PD 制度を踏まえた今後の JEAG4207 改定の方針について、資料 No.10-4-3 / 4、及び資料 No.10-4-5 に基づき、高柳委員、三原田委員から説明があり、議論の結果、改定方針を以下のとおりとした。今後、具体的な活動計画詳細を整理していく予定。

JEAG4207-2004 と PD 制度との関係は、当面、前項の質疑応答での対応にとどめる。現行 JEAG のコンテンツに、JNES における平成 16 年度 SGF 成果として取り纏められた新たな知見の取り込みのための改定を実施する。

PD 制度の認証規格は現行 NDIS とするが、Supplement については JEAG 新規格として新規アイテムと目される異種金属継手部、炭素鋼欠陥サイジング等について整備していくことを目指したい。具体的な方針及び検討は今年度末の認証制度開始以降、改めて判断することとする。

(7) SG 以外の過流探傷試験の規格化方針（案）について

資料 No.10-5-1 及び No.10-5-2 に基づき、高柳委員より、SG 以外の過流探傷試験の規格化アンケートの結果を整理した状況が紹介された。議論の結果、規格化は当面見送ることで挙手による決議の結果、出席者全員の賛成で了承された。本文及びアンケート結果を修文した上で、次回構造分科会に提案する予定。

(8) その他

次回検討会は平成 18 年 2 月 8 日（水）に開催する予定。

以 上